

思いやりの心を育む「なかよし活動」

校長 松井克仁

土岐小学校では、1年生から6年生までを縦割りにした「なかよし」グループを編成して1年間様々な活動に取り組んでいます。1つのグループは各学年からおおよそ2名ずつが入り12名程度のメンバーで構成されています。どんな活動をしているのかというと、まず年度始めにグループ毎に顔合わせの会を行いました。自己紹介をしたり、王様ジャンケンなどの簡単な遊びをしたりしてメンバーの顔と名前を覚えしました。その後、週に1回朝活動(15分間)の時間を利用して外遊び(雨天時は室内遊び)を行っています。遊びの内容は「転がしドッジ」や「だるまさんが転んだ」などで、高学年が中心となってみんなが楽しめる遊びを考えたり、ルールを工夫したりしています。遊びが終わってから子供たちに話を聞くと、低学年の子は「今日の遊びも楽しかったよ。また遊びたいな。」と笑顔で答えてくれました。高学年の子は「みんなが楽しく遊べていてよかったです。これからもグループみんなの仲が深まると嬉しいです」と話してくれました。

本校で作成している「なかよし指導計画」には、活動のねらいが次のように記されています。「異学年による縦割り集団での活動を通して、思いやりの心をもち、自ら進んでよりよい仲間づくりができる」です。上記のコメントのように子供たちは様々な活動を通して、いろいろな学年の子と活動する楽しさを味わっていますし、高学年もリーダーとしての役割をしっかりと意識して頑張っていることが分かります。

私が子供のころ(昭和50年代前半)は、近所の公園に行けばたくさんの子が集まっていて、みんなでいろいろな遊びをしていました。子供の数も多かったですし、習い事も現代ほど盛んではなかったため平日は学校から帰ったら宿題を済ませ一目散に出かけて行ったものです。遊びでは勿論トラブルもあったと思いますが、今は楽しい思い出ばかりが思い出されます。遊びの中では大きい子が小さい子を気遣って遊ぶのが当たり前でしたし、小さい子は大きい子の言うことを聞いたり真似したりしていろいろな経験をしてきたものです。そんな中で大きい子への信頼や憧れを抱いたような気がします。

時代の流れでしょうが、最近では子供たちが学校以外の場所で友達と遊ぶ姿をあまり見かけなくなりました。異学年の縦割りグループの活動は、こうした時代背景もあって意図的に生まれてきた取組の一つですが、これからも大切にしていきたい活動の1つと考えています。



【(↑上2つ) 顔合わせの会の様子】



【(↓3つ) 外遊びの様子】

